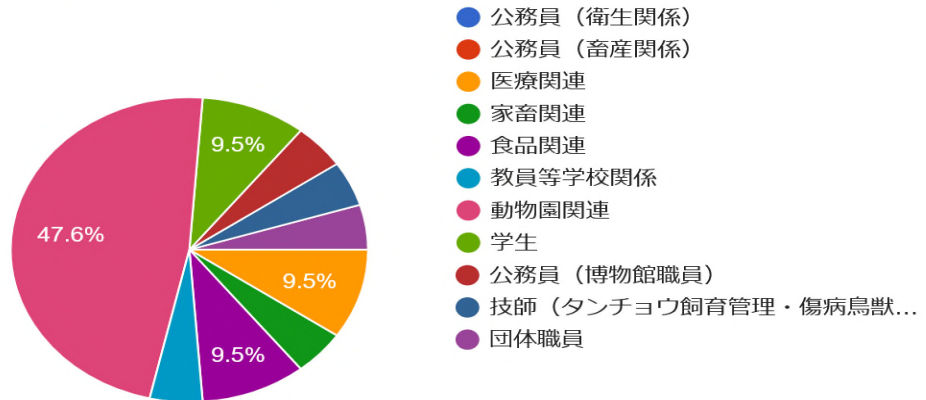


質問 1. 貴方のご職業をお聞きします。

21 件の回答



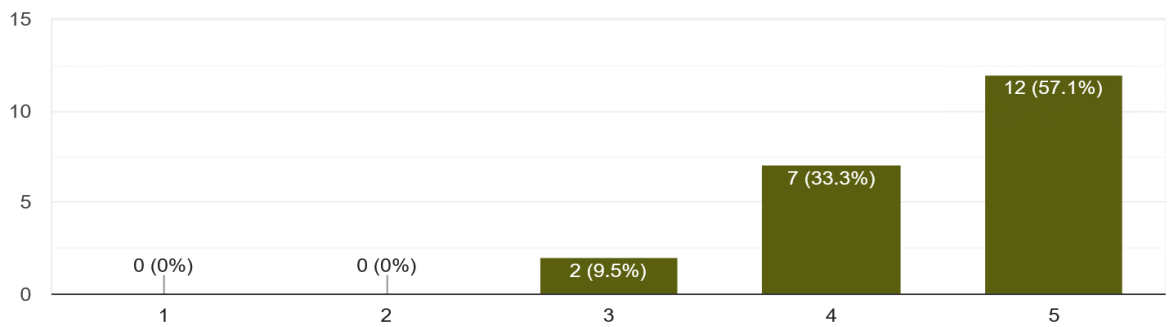
公務員(衛生関係)	0名
公務員(畜産関係)	0名
医療関連	2名
畜産関連	1名

食品関連	2名
教員等学校関係	1名
動物園関連	10名
学生	2名

公務員(博物館職員)	1名
技師(タンチョウ飼育管理・傷病鳥獣保護)	1名
団体職員	1名

質問 2. 今回の講演会の内容はいかがでしたか？

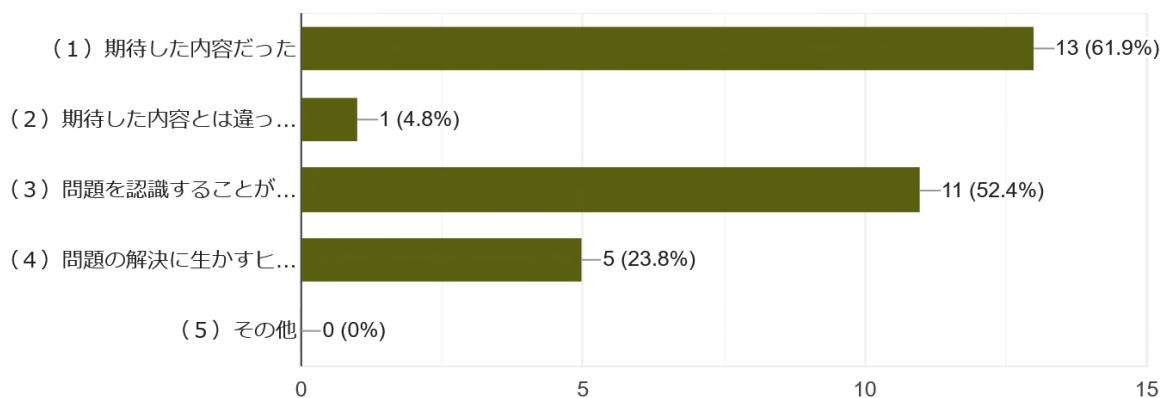
21 件の回答



1	2	3	4	5
○	○	○	○	○
不満である				大変満足している

質問 3. 質問 2 の内容をお答えください。(複数回答可)

21 件の回答

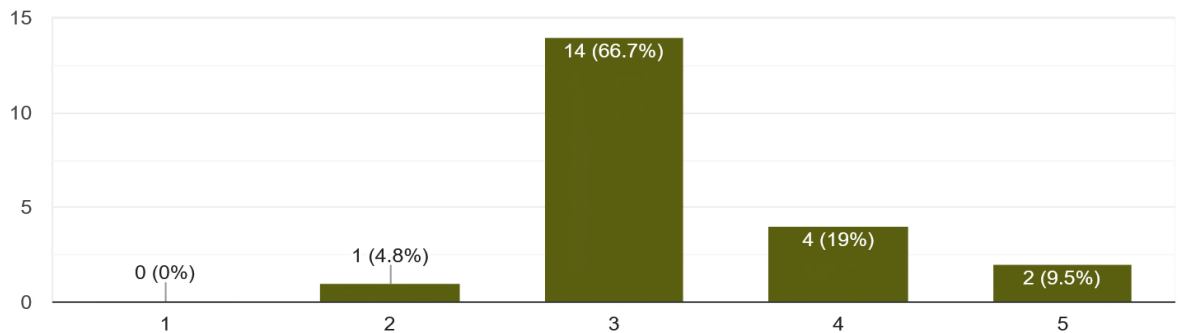


質問4. 質問3の回答内容を具体的にお答えください。
※複数回答の場合は回答の前に番号を記入して下さい。
(18 件の回答)

1. インフルエンザの基礎的なお話から、野鳥から家禽への感染源についてや、感染した野鳥のこと、
2. 家禽のこと、殺処分をどうしておこなうかなどとても充実した内容であった。
3. 鳥インフルエンザに対する理解が深まり、問題点を認識することができた
4. 鳥インフルに関する基本的な情報が網羅されていた。
5. 鳥インフルエンザの概要を理解できました
6. 侵入するウイルス量を抑えると農場での発生を抑えることができるというのは、完璧な対策ができない場合でも努力に値するという、職員への説明に活用できる。
7. 1 インフル発生において、農場に係わる野鳥の飛来、棲息状況等との関連がわかった。
3 昨年度の国内でのインフル大流行の要因が判るとともに、ウイルスの特性を把握し、農場発生防止への対策ポイントがわかった。
8. 現在の現状を分かりやすく解説して下さったので、現状を理解することができた。
また、今後注意すべきポイントがより明確になった。
9. 4 野鳥からの感染対策、鶏飼養の危険性を認識できた。
10. (1)動物園に携わる上では「高病原性鳥インフルエンザ」という言葉はよく耳にする単語でしたが、一体どういうウイルスなのかきちんと理解できていないことが今回の講演を聞いて分かりました。
きちんと学ぶ機会が得られて大変ためになりました。
(3)日本が受け身を強いられている国であること、根本的な発生源を封じ込めることができていない以上、まずは日本国内での発生状況を知ることが重要であると感じました。
11. 鳥インフルエンザへの再認識。また、試験による雀やネズミなどの経過など有益な情報があつた。
12. 2.3: ウイルスの型や、人への感染について知ることができた
13. 鳥インフルエンザウイルスそのものについてや、現状、対策について知っていること、知っているつもりだったことを含め、改めて認識しなおすことが出来、勉強させていただきました。今後対策に活かしていきたいと思っています。
14. 高病原性鳥インフルエンザについて詳しく学ぶことができました。家禽農場での対策がすごく重要なことが分かりました。ワタリドリから様々な動物や国を通じてこのようなウイルスが広まっていることを知り、とても良い勉強になりました。ありがとうございました。
15. 鳥インフルエンザの感染経路や予防などを改めて勉強することができました。
過去の感染状況と比べて現在では、ウイルスの潜伏期間が長くなっている為、鳥インフルエンザ時は特に観察をしっかりと行い調子の悪い個体の早期発見を心がけたいと思います。
16. 高病原性鳥インフルエンザの特性やどうやって持ち込まれるか、発症するかなどとても分かりやすかったです。
17. (1)そもそも鳥インフルエンザとは何か、どのような感染ルートが考えられているのか、ニワトリからヒトにどのように感染するのか等の基本的なところから日本と諸外国の事情も踏まえた現状と対策、今後の課題をわかりやすく講義して下さったので鳥インフルエンザに関して理解することができたと感じるからです。
18. 高病原性鳥インフルエンザの発生メカニズムについて

質問5. 講演会の講演時間はいかがですか？

21 件の回答



短い ○ 1 ○ 2 ○ 3 ○ 4 ○ 5 ○ 長い

質問6. 講演の内容について質問がありましたら、演者名と質問内容をご記入ください。

※回答は後日ホームページで公開いたします。

4 件の回答

1. 大変明快で分かりやすく、特にありません。

2. 迫田先生にご質問です。

(1)細胞表面にあるカモ型レセプター、ニワトリ型レセプターが感染するウィルスに認識されることでしたが、野生のカモ類からウズラ等を介してニワトリに感染した段階で、ウィルスはカモ型、ニワトリ型双方のレセプターを認識するようになっているという理解でよろしいでしょうか。

(2)ワクチンの乱用とはどういう状況なのか(同一個体に何度も接種する?)また、乱用の結果何が起こるのか、教えていただけますでしょうか。

3. 迫田 義博先生への質問です。

シベリア湖沼に世界中から新たなインフルがカモ類を通して供給されるとのことですが、湖沼内はあらゆるインフルプールになるということが予想されます。

①湖沼でカモ類が不顕性? 感染するインフルは年によって異なるのですか? 感染しやすさとか、昨年感染したから今年は別のに感染してるとか。

②同じ年でも世界で報告される鳥インフルは同一の型ではなく、H5N1、H5N6、H5N8、H7N7 等の色んな型が報告されています。その原因は何なのでしょう。

③流行した翌年は、前年に供給された流行株が湖沼にいっぱいあるため、今年は再度、流行するのではと危惧しています。しかしこれまで、同一型の流行が引き続きおこることは 28-29 シーズンと 29-30 シーズン以外にはなかったのですが、なぜでしょうか。

よろしくお願いいたします。

4. 黒木先生に質問です。最初の動画でおっしゃっていましたが、なぜ肉養鶏より採卵鶏の方が殺処分が多いのですか? また、関東(特に千葉)が採卵鶏を、関西が肉養鶏を殺処分することが多いという違いは何ですか?

質問7. Web 講演会へのご意見、ご感想、今後取り上げてほしいテーマなどがありましたらご記入ください。

10 件の回答

1. 鳥インフルエンザ以外での人畜共通感染症について。また感染が急拡大している豚熱などについても知りたいです。
2. 豚熱、アフリカ豚熱等についても専門家の見解を伺いたいと思います。
3. 新型コロナを含む人畜共通感染症について取り上げていただけると嬉しく思います
4. 内部寄生虫(回虫卵)への対策。衛生昆虫類(マダニ、サシバエ)への対策。
5. 希少鳥種に関して、仮に治療を行っていく場合、どのような程度の設備が必要なのか
6. 大変勉強になりました。なかなか講演会に現地参加が難しい世の中、このような Web 講演会を開催していただけること、とてもうれしく思います。こちらの都合ではありますが、1 回 50 分近くだとなかなかまとめてみる時間が取れなかったので 20~25 分×2 とかに分けてい頂けるとよりとっつきやすいかなと思いました。まだ情報は少ないかもしれませんが、動物における新型コロナの現状についてもその内勉強できると嬉しいなと思っております。今回はありがとうございました。
7. 将来獣医学を勉強する上で高病原性鳥インフルエンザのことは知っておくべきことだと思うので、今回の講演会に参加できてとても良い経験になりました。初めて知ったこともたくさんあったので、講演会の動画の内容をまとめて復習しておこうと思います。
貴重なお話を聞かせていただきありがとうございました。
8. 鳥類の繁殖技術 one health について など
9. web 講演会のおかげで鳥インフルエンザに関する基本的な情報から現状を深く学ぶことができました。問題点や対策をする上で何が大切なのかを知ることができたのも良かったです。
今後機会があればまた参加したいと思います。
講演会の内容はとても満足しているのですが、音量をもう少し大きくして頂けると助かります。
聞き取りが難しい箇所があり、とても残念でした。(you tube、パソコンともに音量は最大でしたが...)
10. コロナ禍が with コロナとなれば、公開講座・公開講演も開催されましようか？
開催される際には、貴学今治キャンパスにて是非聴講させていただきたく存じます。
その日を楽しみにしつつ、web 講演も聴講させてください。
今回は貴重なご講演を聴講させていただきまして、ありがとうございました。